

●検査の対象者について

AICSは、下記年齢の日本人(妊娠されている方を除く)を対象として開発された検査です。これらの方以外のAICS値は評価対象外となります。

対象がん	対象年齢
胃がん、肺がん、大腸がん、乳がん	25歳～90歳
前立腺がん	40歳～90歳
子宮がん・卵巣がん	20歳～80歳

●検査前に症状があった場合は、どうすればよいでしょうか？

AICSは、症状のない方を対象とした検査です。あきらかな症状がある場合は、医療機関を受診することをお勧めいたします。

●検査はどのように行われるのでしょうか？

血液を5mL程度採血して検査を行います。1回の採血で、男性AICSは4種類、女性AICSは5種類または2種類のがんに対するリスクについて検査を行います。

●検査の結果はどのくらいで報告されるのでしょうか？

検査結果が報告される日数については、受診する医療機関におたずねください。

●検査の費用について

この検査には健康保険は適用されません。検査の費用については受診される医療機関におたずねください。

●受診前の注意点

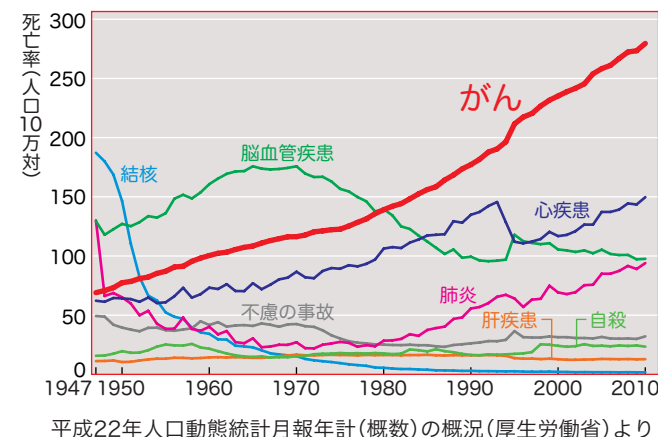
- 検査のための採血は、食事後8時間以上あけ、午前中に受診してください。
- アミノ酸のサプリメント、アミノ酸含有スポーツ飲料、アミノ酸製剤、牛乳・ジュースなども食事同様にお控えください。
- 妊娠されている場合、AICS値に影響がありますので検査は受けられません。



●日本における死因別死亡率の推移

日本における、がんによる死亡者数は年々増加傾向にあり、1981年以降死因の第1位となりました。

また、2010年には、全死亡者数119万7千人中、がんによる死亡者数は35万3千人となり、死亡者の約1/3ががんにより死亡しています。



●がん検診のすすめ

近年、がんの診断技術や治療法は急速に進歩しています。早期にがんを見つけ、早期に適切な治療を行うことにより、がんによる死亡のリスクを減らすことができることから、定期的ながん検診による早期発見が重要です。

医療機関名

新しいアプローチで
がんのリスクをチェック！

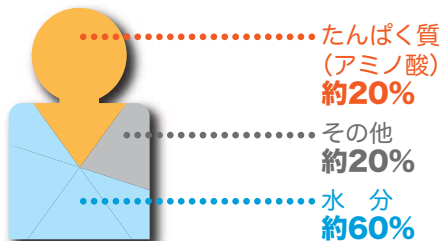
アミノインデックス®
がんリスクスクリーニング

監修：三井記念病院 総合健診センター 所長
山門 寛



●人のからだとアミノ酸

人のからだは約60%が水分で、約20%がたんぱく質でできています。人のからだを構成しているたんぱく質は、20種類のアミノ酸から作られています。



●病気とアミノ酸バランス

アミノ酸は血液中にも含まれており、健康な人の血液中のアミノ酸濃度は、それぞれ、一定に保たれるようにコントロールされています。

しかし、さまざまな病気になると、一定に保たれている血液中のアミノ酸濃度のバランスが変化することが分かっています。

●アミノインデックス®とは何ですか？

アミノインデックス®とは血液中のアミノ酸濃度を測定し、健康状態やさまざまな病気の可能性を明らかにする技術を活用した解析サービスです。

現在は、がんであるリスク(可能性)を予測する、「アミノインデックス®がんリスクスクリーニング(AICS)」検査が可能となりました。

●アミノインデックス®がんリスクスクリーニング(AICS)とは何ですか？

アミノインデックス®がんリスクスクリーニング(AICS: AminoIndex® Cancer Screening)とは、血液中のアミノ酸濃度を測定し、健康な人とがんである人のアミノ酸濃度のバランスの違いを統計的に解析することで、がんであるリスク(可能性)を予測する検査です。

●AICS(エー アイ シー エス)は全てのがんについてのリスクが予測できるのですか？

現在は、胃がん、肺がん、大腸がん、前立腺がん(男性のみ)、乳がん(女性のみ)、子宮がん・卵巣がん*(女性のみ)を対象としたリスクについて予測することができます。

男性AICS[4種]	胃がん、肺がん、大腸がん、前立腺がん
女性AICS[5種]	胃がん、肺がん、大腸がん、乳がん、子宮がん・卵巣がん*
女性AICS[2種]	乳がん、子宮がん・卵巣がん*

●*子宮がん・卵巣がんについて

子宮がん・卵巣がんは、子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がんを対象としています。いずれかのがんであるリスクについて予測することができますが、それぞれのがんのリスクについて区別することはできません。

●がんであるリスクとはどのようなことですか？

リスクとは、確率、可能性、危険性などと呼ばれているもので、がんであるか否かをはっきりと判断するものではありません。

AICSは、それぞれのがんについて、がんである確率を0.0~10.0の数値(AICS値)で報告いたします。リスクの傾向は数値が高いほど、がんである確率が高くなります。

また、このAICS値からリスクを判断する目安として、「ランクA」「ランクB」「ランクC」に分類され、がんであるリスクの傾向が3段階で示されます。

ランク分類	ランクA	ランクB	ランクC
AICS値	0.0~4.9	5.0~7.9	8.0~10.0
低い ← がんであるリスク → 高い			

●ランク別の、がんであるリスク(確率)はどのくらいなのか？

一般の方ががんである確率は、統計的に約1/1,000(1,000人に1人)といわれています。

AICSにおける、ランク別の、がんであるおおよその確率は以下のとおりです。

ランク分類	ランクA	ランクB	ランクC
AICS値	0.0~4.9	5.0~7.9	8.0~10.0
胃がん	1/3,200【0.3倍】	1/625【1.6倍】	1/98【10.2倍】
肺がん	1/2,963【0.3倍】	1/536【1.9倍】	1/111【9.0倍】
大腸がん	1/2,000【0.5倍】	1/789【1.3倍】	1/122【8.2倍】
前立腺がん	1/2,222【0.5倍】	1/469【2.1倍】	1/156【6.4倍】
乳がん	1/1,509【0.7倍】	1/556【1.8倍】	1/250【4.0倍】
子宮がん・卵巣がん	1/4,000【0.3倍】	1/682【1.5倍】	1/86【11.6倍】

【 】:一般の方ががんであるリスクを1とした場合の、がんであるリスクの倍率

例えば、胃がんにおいて「ランクA」となった場合、がんである確率は1/3,200となり、同じ「ランクA」となった3,200人中1人の確率でがんである可能性を示します。「ランクB」では1/625、「ランクC」では1/98となり、「ランクA」「ランクB」「ランクC」の順でがんである確率が高くなることを示します。

また、一般の方ががんであるリスクを1とした場合、胃がんにおける「ランクB」は1.6倍、「ランクC」では10.2倍のリスクがあるといえます(【 】内の数値)。

●「ランクA」であれば、がんではないのでしょうか？ また、「ランクC」であれば、がんなのでしょう？

この検査は、がんであるリスクを予測する検査で、がんであるか否かをはっきりと判断するものではありません。がんであるリスクが0の人はいませんので、「ランクA」でも、がんでないとは言いきれませんし、「ランクB」や「ランクC」であっても、必ずがんであるということではありません。

また、血液中のアミノ酸濃度は、さまざまな原因で変化しますので、がん以外の病気でもAICS値が高くなり、「ランクB」や「ランクC」になる場合があります。

AICSは、その他の検査結果とともに総合的に判断されるものです。リスクに対する考え方や感じ方は個人により異なりますので、リスクに対する判断や精密検査を行うかは、受診した医療機関の医師とご相談ください。



●AICSを受診すれば、他のがんに対する検査は必要ないのですか？

AICSは、今までのがん検診とは異なり、血液中のアミノ酸濃度からがんのリスクを予測する新しい検査です。今までのがんに対する検査と併用することで、がんを見つけだせる可能性が高くなると考えられます。

その他の検査も受診されるかは、医療機関の医師とご相談ください。

●AICSは1度検査をすれば良いのでしょうか？

この検査は、採血を行った時の、がんであるリスクを予測する検査です。生涯に渡ってのリスクを予測するものではありませんので、定期的な検査をお勧めいたします。